

平成 30 年度 第 1 回指導医制度委員会 議事録

日時：平成 30 年 12 月 5 日 13:00 - 15:00

場所：マイナビルーム 2F-W (東京都千代田区一ツ橋 1-1-1 パレスサイドビル 2F)

出席者：前田 健 (理事)、田中 信弘 (委員長)、江幡 重人、尾形 直則、海渡 貴司、佐藤 公昭、竹林 庸雄、筑田 博隆、星野 雅俊、渡邊 航太

欠席者：伊東 学、水谷 潤

【審査会】

出席者全員にて、平成 30 年度新規申請者 79 名、継続申請者 146 名 (うち猶予申請者 1 名、名誉指導医申請 1 名) の審査が行われた。その結果、新規申請者では、合格者 72 名、不合格者 1 名、保留 6 名、継続申請者では、合格者 146 名 (うち猶予申請者 1 名、名誉指導医申請 1 名)、不合格者 0 名、保留 0 名であり、新規の保留の 6 名については、平成 30 年 12 月 20 日までに不足分などの書類や症例を再提出させ、それらの内容を理事、委員長で再審査して、その後に合否認定をすることになった。

【委員会】

< 審議事項 >

審査会にて問題となった申請者についての検討

1) 新規申請者の B 判定 1 名について

3 名の判定者のうち 1 名が B 判定となっている申請者がいた。委員会の判断にて不合格と判定した。

2) 指導医新規申請者 (6 名)

公式に発表・出版したことがわかる業績が提出されていない人 1 名

手術記事が病院の様式でないと思われる人 1 名

症例に BKP、抜釘が含まれていた人 3 名

患者の個人情報を消していない人 1 名

3) 指導医継続申請者 (0 名)

特になし

< 報告事項 >

1) 永年に渡り、本委員会委員長として貢献していただいた笠井裕一先生の転勤に伴い、本委員会委員長が交代となった。

2) ここ数年の申請要綱、および Q&A の充足により、例年に比べ書類の不備などは少ない傾向であった。しかし、評議員変更に伴い評議員資格を有しない先生に判定を依頼する申請者が散見された。学会事務局より申請者に連絡して、別の評議員に判定を依頼していただいた。

- 3) 提出症例の中に、BKP、PELD などの経皮的な手技を含めている申請者も散見された。これらの経皮的な手術手技は継続申請においては 20 例までは認められるため、200 例以上の症例提出をされていた申請者では問題とならなかったが、これらの経皮的な手術症例を差し引き症例数が不足した申請者が存在した。
- 4) 2 回分の日本脊椎脊髄病学会学術集会参加証（コピー可）が不足している申請者が散見された。学術集会中に開催された「医療安全対策・感染防止対策・倫理等に関する研修」の受講証明書にて代用されている申請者が殆どであったが、日整会学会ホームページの会員マイページのプリントアウトで代用した者も存在した。書類上間違いなく本人参加によるものと判断されたため、当該プリントアウト書類は参加証の代用として認められた。